

## 平成 30 年度 第 1 回 学校運営協議会 【議事録】

平成 30 年 6 月 27 日

10 : 00 ~ 12 : 00

[場所] 茨木支援学校 校長室

[出席者] 協議会委員 (5 名) 校長 准校長 教頭 (2 名) 事務長 首席 (3 名)  
指導教諭 教務部長 部主事 (2 名) 首席兼部主事 (1 名) 計 18 名

はじめに、あいさつのあと、職業コース喫茶の見学をおこなう。

### 1. 学校運営協議会について (校長より)

今年度より学校協議会から学校運営協議会へとなり、実施要綱に基づき変更点の説明

- ・府立学校はすべてコミュニティースクールの位置づけとなり、より地域と繋がりを深め運営していくこととなった。

《第 2 条について》

- ・今年度の学校運営に関する基本的な方針《学校経営計画》の確認をしていただき、協議会の承認をいただく必要がある

《第 3 条について》

- ・学校経営計画を達成するため必要があれば職員の任用に関することに意見を言うことができる。但し個人に関わるものでないこと。

《第 10 条の 5 より》

- ・協議会の議事については、会長を含め出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は会長に決めていただく。

### ○6 月 18 日の大阪北部地震の被害状況報告

- ・ 2 階職員トイレ、視聴覚教室前階段の封鎖、給食室の冷蔵庫が故障
- ・ その他校内の壁にひびが多数、ガスが止まり、20 日(水)まで臨時休校
- ・ 21 日(木)22 日(金)は簡易給食で対応
- ・ 人的な被害はなく、25 日(月)からは平常に戻っている。

### 2. 学校運営協議会委員のご紹介と会長副会長の選出

会長あいさつ

毎年たくさんの課題が出てくるが、先生方はよく頑張ってください  
新しい運営協議会で責任が重くなったが、前向きにとらえて学校を支えていけるよう意見を出していきたい。

### 3. 平成 30 年度学校経営計画について校長、准校長より説明

校長より

平成 29 年度分を説明

- \* 昨年度評価が下がっているところを中心に取り組みを設定

①授業改善（新教育課程も含めて）

- ・授業の目標設定等全校的に活動する
- ・楽スタ・タブレット型PCなど、新しい機器を積極的に使用する
- ・ポッチャ甲子園に参加予定・・・8月東京へ行く
- ・キャリア教育・・・喫茶・清掃 高等部の就労希望の生徒対象

②会議の効率化

- ・今年の業務を効率的に進めていくよう取り組んでいく  
→生徒と関わる時間を増やす

③防災

- ・今回の地震を受け防災意識が高まった。
- ・精度の高い防災マニュアルを作成し、不安払拭につなげる  
→大勢の来客時における防災マニュアル作成にむけて取り組む

④高度医療の国事業を活用している

- ・泊行事にドクター付き添い等を実施している

【ご意見など】

- 学校経営計画を立てるときは年度末に反省して何ができて何ができなくて、次年度どうするか考えるもの。昨年度できなかったことをもう一度踏襲するだけではなく、昨年度考えていなかったけれどこれをプラスしたいという伝統を重んじながらも何かをプラスすることから学校が発展すると考える。  
伝統を重んじることと、新たなことに挑戦することが一つのやり方だと考える。
- 昨年研修で来校し、茨木支援の先生方がいつも一生懸命取り組まれている姿を見ている。「チーム学校の意識化」というのはカリキュラムマネジメントの一環で、今年度の反省を生かし、来年度に生かしていければ良い。連動して取り組めたら素晴らしいと思う。次期学習指導要領の先行実施となっているが、今年度から小学校・中学校では先行して行われており、支援学校を見習って指導計画などを作成することになっている。センター的機能をしっかり果たすために地域の学校と連携していってもらいたいことを期待している。
- 就労希望生徒の100パーセントというのが気になる。大阪府からの指示があるのかわからないが、このパーセントにこだわるよりも定着率のほうが大切なのではないか。例えば、就職率は50パーセントだったが、定着率は100パーセントだったという方が良いのではないかと思う。定着率についての目標も記述したほうが良いのではないかと思う。
- 進路指導部は保護者の希望にそえるよう就職をめざすような努力をするが、100パーセントを目指すのが進路の仕事ではないと思う。さまざまな支援を受けながら定着を目指してほしい。

以上の意見交流を受け、「平成 30 年度 学校経営計画」が全体で承認される

#### 4. 授業評価の実施について（授業アンケート）

**教頭より** 「授業アンケートについて（お知らせ）」

- ・生徒対象（中高生）のアンケートと保護者対象のアンケート（2種類）
- ・授業改善と評価育成が目的
- ・事前配付し、授業参観期間を利用して参観後回収ボックスと連絡帳で改修
- ・自由記述の欄も作っている  
→手引きには書いていないが、本校の協議会で声を集めるように言われているので、実施している。授業改善に向けて利用する
- ・アンケート結果集約後、報告

[意見、質問など]

Q. 保護者用のアンケートに記名欄があると記入しにくいのではないかと。

A. 手引きに記名が必要とある。責任をもって書いていただくということで理解している。

Q. このアンケートだけでは、一方的な先生の評価になるのではないかと。生徒自身の自己評価はどうなっているのか。自分を振り返り、自覚を持たせることも必要ではないかと。

A. 項目が手引きで決まっており、ほかの項目を入れることが難しい。

生徒の授業態度は日ごろから教員が見て評価している。また、一部の生徒は、校内実習時に実習簿で自己を振り返る機会や、生徒によっては日々の記録で振り返っている生徒もいる。

Q. 評価の文言がネガティブで生徒はとても答えにくそう。「少し思わない」というのは文章的におかしい。

A. 文言など、あらかじめ決められている部分が多い。

最大限学校に見合った形で質問項目を採用していったらいいと思う。

前年度の反省を生かし、回収率が前年を下回ることがないよう、PTAにもPRするなど、協力を何度も願えばいいと思う。

#### 6. 本年度使用教科書について

**教務部長より説明**・・・今年度の採択教科書一覧表および実物の回覧

継続の教科書は検定本と文科省教書を使用することになっているが、9条本もある。本校はほぼ9条本を多く選定している。検定本を使用するときには、過去の使用リストをもとに重複しないようにしている。

来年度の使用教科書は、現在学年、学部で選定作業中。資料は次回の協議会で報告する。

- Q. 中学部で難しい教科書使っているが、実態にあっているのか。
- A. 肢体不自由の生徒で教科学習をしており、高校受験も視野に入れて悩んでいる生徒がいる。中学部で3名がチャレンジテストを受ける。
- Q. 新カリキュラムについてプログラミング教育などについての情報が知りたい。
- A. まだ教科書に対応しているところまではいっていない。そこは32年度から、道徳は27年度から進めている。
- Q. 「道徳」を教科化するの、先生も大変だろうと思う。
- A. 福井小学校はすでに進めている。英語も福井高校は、逆に総合学科で選択が多い、選べるのはいいが決まってしまうと、取り直しがきかないデメリットがある。
- Q. 現在、教科書の取り扱いはどうなっているか。昔の話だが、学校保管で年度末に返却することもあり、子どもの実態にあっておらず、保護者に「教科書を見たことがない」と詰められたこともある。教員に尋ねたら、使ってない。置いていると。それでは保護者に言われると厳しい。税金を使っているの、卒業時に返却ではどうか。今はそんなことはないと思うが、子供の実態にあった教科書を選んで使ってほしい。
- A. 毎年採択できる本が減ってきている。重複を避けて選定するのも難しい。最近教科書を使った授業が増えてきている。学校保管にしているのは、事実だが、他の荷物が多いからという理由もある。昔よりは教科書を使った授業は断然多くなっている。教科書をパネルシアターにして使うなどの工夫もしている。
- A. 学校保管は教頭の説明通りだが、一度持ち帰ることを希望される保護者もあり、今年小1の保護者が初めての教科書を確認された様子。そのほかは教室で保管し、使用している。実態に合わないということがあるのは、同一グループ内同一教科書などの縛りがある。実態との開きがあるのは、個別の対応で教員が工夫している。

以上の質疑応答を受け、教科書についても全体で承認される。

#### [諸連絡]

協議会意見書箱への投書はなし。

次回第2回学校運営協議会は11月7日10:00~校長室にて。

以上